

## コロナワクチンとインフルエンザワクチン接種

9月下旬になっても異例の暑さが続いています。涼しいのは夜だけで日本全体が亜熱帯の真ただ中にあるようです。

さて、現在高齢者にとっては7回目のコロナワクチンの無料の接種券が御殿場市民に送られてきており各医療機関は予約で忙しいことと思います。今後すべての年齢に接種券が配られる予定で、さらに10月から始まるインフルエンザ接種と重なり、一体どっちを先に打つべきか、それとも同時接種で良いのか、それとも打たなくても良いのかと医療関係者でなくても悩むところです。

インフルエンザワクチンは有効期間が4-5か月とされており、10月に打つと、翌年2月頃には効力が薄れることから、今までは11月以後に打った方が理想とされていました。しかし、この3年間インフルエンザの流行がなかった事で、国民全体のインフルエンザに対する抗体が弱くなっていることから、いつ流行が始まるのか誰にも予想できないのが実情で、早く打った方が良いとの意見もあります。

よって同時接種しても一向に構わないのですが、インフルエンザは皮下注で、コロナは筋注で打つ場所も違い、同時に打つとどれ程の副反応が起きるのか誰にもわからず、やはり2-4週間開けて打つ方が無難ではないかと個人的には考えております。

考え方は各医療機関で異なり、医師の判断に任されますので、市民の方は医師とよく相談のうえで接種することをお勧めします。

どちらにしても間違いのないように医師、看護師、事務の連携をしっかりとって焦らずに接種することが必須となります。

